

101-125

問題文

ウェルシュ菌及びウェルシュ菌による食中毒に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. ウェルシュ菌は、*Clostridium botulinum*という学名の偏性嫌気性菌である。
2. 最近(2011年以降)の1年あたりの発生件数は、腸炎ビブリオによる食中毒より少ない。
3. 最近(2011年以降)の食中毒1件あたりの平均患者数は、カンピロバクターによる食中毒に比べて多い。
4. 給食や学生食堂において、食肉を調理したカレーやシチューなどの食品が原因となることが多い。
5. 潜伏期間は3日～1週間と長く、主要症状は腹痛と水様性下痢である。

解答

3, 4

解説

選択肢 1 ですが

書いてある英語の名前が クロストリジウム ボツリヌス みたいな名前なので、これはボツリヌス菌の記述と分かります。よって、選択肢 1 は誤りです。ちなみにウェルシュ菌は *Clostridium perfringens* らしいです。嫌気性桿菌です。

選択肢 2 ですが

腸炎ビブリオは、かつては細菌性食中毒として多かったのですが、近年著しく減少しており年間 10 件にも満たない発生状況です。一方、ウェルシュ菌は、年間 20 ～ 40 件 です。よって、選択肢 2 は誤りです。（正直、「両方少なめ」。ウェルシュ＝給食病。一件あたりが、患者数多い ぐらいしか覚えていないので、この選択肢はパスでもいいかも。。）

選択肢 3,4 は、正しい選択肢です。

ウェルシュ菌は熱に強く、嫌気性で、芽胞を作る細菌です。ウェルシュ菌による食中毒は別名給食病と呼ばれ、一件当たりの患者数が多いのが特徴です。

選択肢 5 ですが

この潜伏期間は O157 に関する記述と思われます。ウェルシュ菌による食中毒は、給食食べてその日の晩に発症する感じなので 3 日～1 週間では、ありません。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 3,4 です。